

運用先市場の状況

国内株式市場および国内債券市場 2023年10月～12月

作成基準日 2023年12月29日

○国内市場

・株式市場

10～12月を通してTopix(東証株価指数)で見ると、国内株式市場は上昇しました。

10月、国内株式市場は下落しました。米金利の上昇や中東情勢の緊迫化などが下押し材料になりました。月末には日銀が長短金利操作の再修正を決定し、荒い値動きとなりました。

11月、国内の株式市場は上昇しました。国内企業の業績上振れや株主還元発表などが好感されました。米国で物価が落ち着きを見せ、追加利上げ観測の後退で金利上昇が一服したことも好材料となりました。一方、米ドル安・円高が上値を抑える場面もありました。

12月、国内株式市場は小幅に下落しました。日銀の金融政策修正への警戒や円高の動きを受けて軟調に推移しました。下旬は、日銀が大規模金融緩和策の維持を決定し、持ち直しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

10～12月を通して見ると、国内の長期金利(10年国債利回り)は、低下しました。

10月、国内の長期金利は、上昇しました。月初、米金利上昇や国債入札の不調を受け、長期金利は上昇しました。その後も、日銀の金融政策修正への思惑から一段と上昇しました。日銀は月末に、長期金利の上限目途を1%とすると共に、指値オペの実施利回りについて、これまでの1%から、金利の実勢等を踏まえて適宜決定することへ変更しました。

11月、長期金利は低下しました。米国で利上げ打ち止め観測から金利が低下し、国内でも長期金利が低下しました。

12月、長期金利は低下しました。上旬は、日銀総裁の発言などを受けて金融政策変更への警戒が高まり、長期金利は上昇する局面がありました。しかし、その後金融政策変更への警戒感は和らぎ、長期金利は概ね低下傾向となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

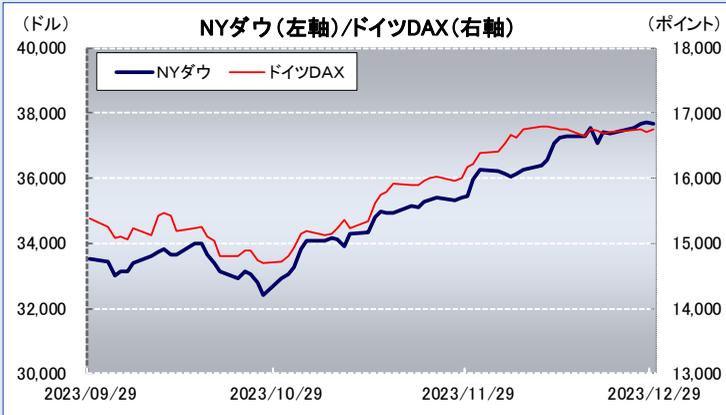
運用先市場の状況

外国株式市場、外国債券市場および為替市場 2023年10月~12月

作成基準日 2023年12月29日

○外国市場 ・株式市場

10~12月を通して見ると、米欧の株式市場は上昇しました。
 10月、米国株式市場は下落しました。強めの物価統計などから長期金利が上昇し、株価の押下げ要因になりました。
 11月、米国株式市場は上昇しました。追加利上げはないとの見方が広まったこと、企業業績に事前予想を上回るものが多かったことなどが好感されました。
 12月、米国株式市場は上昇しました。景気や物価の指標などが早期の利下げ観測につながり、一段高となりました。
 欧州株式市場も、期を通じて見ると米国株式市場に連れる形で上昇しました。欧州中央銀行の金融政策についても、利下げ前倒し期待が強まり、株価の下支えとなりました。

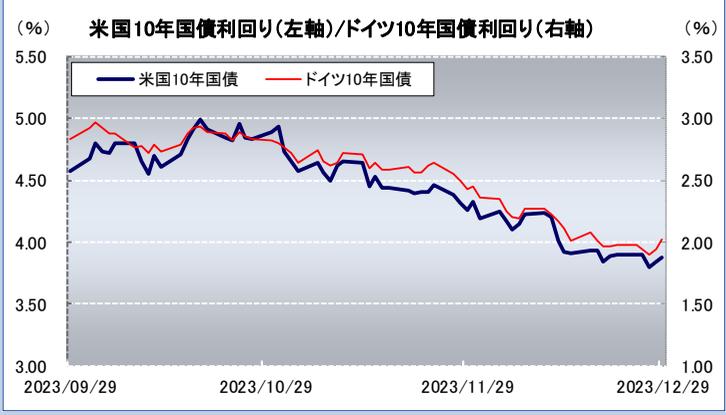


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



・債券市場

10~12月を通して見ると、米欧の長期金利(10年国債利回り)は低下しました。
 10月、米国の長期金利は上昇しました。景気の強さを示す経済統計の発表が相次ぎ、金利上昇要因になりました。
 11月、米国の長期金利は低下しました。政策金利の据置き決定に加え、インフレ懸念の後退から利上げ終了観測が広がり、金利に低下圧力がかかりました。
 12月、米国の長期金利は低下しました。政策金利の据置きが続く中で早期の利下げ観測も広がり、金利は低下しました。
 ユーロ圏でも、利下げ前倒し期待が強まり、長期金利(ドイツ10年国債利回り)は低下傾向となりました。

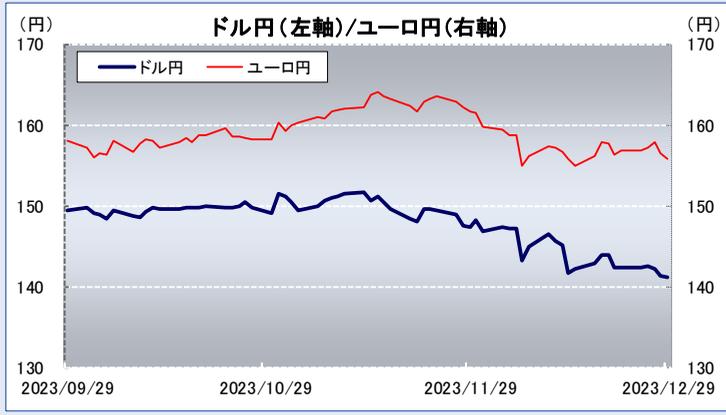


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



○為替市場

10~12月を通して見ると、米ドル、ユーロともに対円で下落しました。
 10月、米ドル高・円安となりました。米国での堅調な景気を背景とした金利高が米ドル高要因となりました。日銀の政策再修正は市場の想定よりも小さく、円買い圧力が薄れました。
 11月、米国での利上げ終了観測や金利低下などから、米ドル安・円高となりました。
 12月、米国では早期利下げ観測が、日本では早期マイナス金利解除の思惑が広まり、米ドル安・円高が進行しました。
 ユーロ/円も、期を通じて見ると、日欧間でも金融政策の方向性の違いが薄らぎ、ユーロ安・円高となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。